

2007年度東京災害ボランティアネットワーク事業計画

【重点課題】

2007年度、東京災害ボランティアネットワークは、首都圏大災害に向けた具体的な対応策を検討していきます

- ・東京で大災害が発生することが避けられないことを踏まえ、東災ボ内団体の社会的資源の確認と具体的な対応策を検討します
- ・災害時に想定される具体的課題に対し、市民と関係機関、民間組織・団体の協働の訓練を実施します

【予定されている事業】

首都圏統一帰宅困難者対応訓練

- (1).実施期日：2007年10月中を提案したい
- (2).実施コース：距離にして20km以内程度 4コースの同時実施を提案
東京 千葉コース 蔵前橋通り経由
東京 埼玉コース 中山道経由か日光街道
東京 神奈川コース 国道1号線経由
東京 多摩コース 青梅街道経由
東京出発候補地：日比谷公園内空き地、日比谷公園野外音楽堂、皇居前広場
- (3).参加人員：徒歩帰宅訓練8000名 沿道支援2000名
- (4).実行委員会の設立：2007年6月頃
- (5).事業財政：実行委員会での公募方式
- (6).実行体制：実行体制については、今後実行委員会設立後、協議・確認する

各地で頻発する大災害。首都圏にも大きな災害がいつくとも限りません。東災ボ参加団体を中心に具体的な対策を考えていきたいと思ひます。(写真：能登半島地震の際の被災地)



地域や組織・団体の防災力向上に向けて取り組みます

- ・地域や組織・団体といった「面として」の防災力向上に向け、市民講座や研修などを開催します
- ・地域や組織・団体の講座・研修に講師派遣・プログラム提供をおこなうことで、防災力向上に向けた取り組みを実施します

都道府県・市区町村社会福祉協議会での災害ボランティア講座・研修等
町会・自治会における防災市民講座等
東災ボ参加団体内外の各団体における災害ボランティア研修・講座、災害体験訓練等



これまでも、東災ボは団体・組織や地域での「防災まち歩き」や小さな市民防災講座を実施してきました。今年度もこれらの取り組みを積極的に実施していきます。(写真：防災まち歩き時のもの)

広く市民の方々の防災・減災意識啓蒙に向けて取り組みます

- ・より多くの様々な主体が参画・協働できるイベント型啓蒙活動やシンポジウムを実施します

【実施された事業】

防災・減災シンポジウムの開催・企画協力等

東京の防災・減災を考えるつどい

日 程：2007年5月26日(土)開催

主 催：全労済東京都本部・東京労済

内 容：基調講演：東京の都市政策と市民生活の安全課題(青山やすし氏)

パネルディスカッション：大災害と東京のライフライン

参加者：約300名

1.17 イベントの開催

東災ボ参加団体、および関係団体との連携を深めます

- ・東京災害ボランティアネットワークは、想定される首都圏直下型地震の発生に備え、具体的な対応策の検討に着手します。

東災ボの参加団体の、特に全国ネットワークとして活動をされている団体を中心に、東京での巨大地震発生時に対して予想される組織・団体の対策、団体としての社会的役割、社会的資源(施設・人材・経験・財政等)に関して、団体間の連携という点から、協議の場を設立させていただき、東災ボ総体としての首都圏大災害に向けた具体的な対応策の検討をおこないます

- ・首都圏統一帰宅困難者の実施

都市災害発生時には様々な課題が表出します。その中でも重要な課題の一つが「帰宅困難者課題」です。東災ボは設立直後より、その具体的な対応訓練を多様な団体の皆様と共に「社会的実験」として取り組んできました。

本年は、その対象者数百万人を意識して、従来の1県1方向の取り組みを抜本的に改善し、首都圏統一帰宅困難者対応訓練の実施に向け、努力します。(実施に関する詳細は別添資料参照)

- ・行政・関係機関との連携を進める定期協議の設置に努力します

東京都は災害発生時には、東京都災害対策本部内に「ボランティア本部」を設置する等、「災害発生時対応マニュアル」を策定しています。それらの所管は東京都生活文化スポーツ局都民生活部となっており、東災ボの災害時ボランティア対応を構想すると同時に、東京都との災害時における連携のあり方を定期協議する場の設置に努力します。



TOSAIBO TIMESも編集委員会を立ち上げ、毎月の発行を目指しています。小さな会報誌ですが、参加団体に東災ボの活動を告知・報告していきます
(写真:リニューアルされたTIMES)

運営体制の拡充を図ります

- ・東災ボの財政強化として、事業や会費・寄付収入の増加に向け東災ボ参加団体や関係機関に各種事業を提案します
- ・現在、事務局は2名の体制となっていますが、常勤・非常勤を含めて事務局員の拡充を検討します



毎月開かれている事務局会議では、事業方針や事業の具体的な方法まで、様々な議論が交わされています

三宅島を含む、被災地支援に取り組みます

- ・東京災害ボランティアネットワークは、三宅島支援センターの一員として、今年度も「みやけじま<風の家>」の活動・運営に主体的に取り組みます。
- ・突発的に発生する災害に対し、東京災害ボランティアネットワークは、会員団体、および関係機関と連携して被災地支援・被災者支援に取り組みます。

【予定されている事業】

名称：三宅島噴火災害被災者支援事業から学ぶ「三宅島現地研修会」

日程：2007年7月5日(木)出発～7月8日(日)夜到着

場所：三宅島島内関係施設

宿泊は民宿となり、研修は島内関係施設や「みやけじま<風の家>」

対象：三宅島災害・東京ボランティア支援センター参加団体

および、帰島支援事業参加メンバーを中心とし、その他関係団体も可

内容：講義・報告プログラム/島内現状視察プログラム/島民交流プログラム

費用：1名40000円

内訳 渡航費、宿泊費、食費、視察バス貸切費、講座研修費
(これ以外にはほとんど費用はかかりません)